

SDGsの理解に向けてアドバイスを受けた ～2年1組と千葉大学留学生の交流が実現～

本校では10月6日（火）に、千葉大学で学んでいる留学生を迎え、生徒との交流を行いました。

これは、毎年2学年を対象に毎年アメリカ・カナダ・オーストラリアへの海外語学研修を実施していますが、今年度は新型コロナウイルスの流行によりやむなく中止となったため、それに代わる異文化体験を模索する中で、以前より連携関係のある千葉大学に相談したところ、同大学の「次世代才能支援室」の支援により留学生の協力が得られ実現したものです。

当日は、ブラジル、メキシコ、フィリピン、バングラデシュ、ウクライナ、ベナンの6か国から7名の留学生が来校し、2年1組の生徒と2時間にわたり、感染拡大防止に最大限の対応を取りながら交流を行いました。

初めに、壇上に上がった留学生から母国名を当てるクイズが出され、「母国で有名な日本人」、「母国語での挨拶」、「隣国の名前」、「母国の誇れるもの」などのヒントをもとに、生徒がこれまでに得た知識をもとに回答しました。その後生徒は5人程度のグループに分かれ、それぞれの留学生が巡回してすべての生徒と英語でやり取りし、お互いを知り合う時間を共有しました。

2時間目には、生徒たちが取り組んでいる「SDGs」(Sustainable Development Goals：国連が提唱する「持続可能な開発目標」)の17の目標について、各グループが選んだテーマに沿って調査研究した内容を、英語によるプレゼンテーションとして発表しました。留学生は全員が母国では教職についているため、より効果的なプレゼンテーションにするためのヒントを的確

に与えてもらうことができました。アドバイスを受けた生徒は、「テーマの設定から、説明の順序、提示するスライドの作り方、写真や資料の選び方、適切な文字の大きさや簡潔な表現を心掛けること、など、私たちが作った発表資料について、一つひとつ丁寧に指導していただいた。これからさらに修正してよりわかりやすいものにしていきたい。」、「私たちと同じように英語を母国語としない方たちと英語での交流ができたことは、と

ても貴重な経験だった。もっとたくさん交流したかった。」など

と感想を述べていました。11月17日（火）に第2回目の交流を計画しており、その際には今回の経験をもとに、より深い内容での交流が実現するでしょう。

